

6. 産後の母親の精神状態に関する一考察  
 ~ EPDS とマタニティブルーズ質問票の併用による検討 ~

真田産婦人科麻酔科クリニック  
 ○酒井 康子、内川 加代子、橋口 和恵  
 平川 万紀子、真田 九州男  
 産業医科大学産業保健学部  
 福澤 雪子  
 佐賀大学医学部看護学科  
 山川 裕子

【はじめに】

産褥期の看護実践において、母親の精神状態を把握し心身両面にわたる支援に結びつけることは、重要な課題である。先行研究(内川 2003)で、産褥早期にエジンバラ産後うつ病質問票(以下 EPDS とする)を用いた調査を行ったところ、母親の精神状態と社会的背景や授乳などの育児情報との間に関連はみられなかったものの、退院時 12.9%、1 か月時 5.2% の母親がうつ状態であることが明らかになった。

【目的】

産褥早期の精神状態の不安定さはマタニティブルーズの可能性があることから、先行研究で課題の残った、産後うつ病とマタニティブルーズの関連性<sup>1)</sup>について、EPDS とマタニティブルーズ質問票を併用して調査・検討する。

【研究方法】

1. 対象と期間

当院で平成 15 年 6 月から 12 月に出産した褥婦 366 名を対象

2. 調査方法

(1) マタニティブルーズ質問票、EPDS の自記式アンケートを実施。マタニティブルーズ質問票は退院時に実施し、8 点以上が高得点で

マタニティブルーズと判定。EPDS は退院時と 1 か月時に実施し、10 項目 4 件法で 9 点以上が高得点で産後うつ病が疑われる。

(2) 属性については入院カルテより情報収集した。

3. 分析方法

統計解析ソフト SPSS ver.11.5j. で分析(相関、 $\chi^2$  検定)を行った。

データは個人名が特定されないように配慮した。

4. 当院の取り組み

妊娠中から産後 1 か月時までの当院の取り組みについてを表 1 に示す。

【結果】

1. 分析対象者は 356 名(有効回答 97%)で、その内訳は、初産婦 188 名、経産婦 168 名であった。平均年齢は 29.9 ± 4.5 歳。経膈分娩 337 名、帝王切開 19 名、母子分離 6 名であった。

2. 属性とマタニティブルーズ・EPDS との関係については、①職業の有無。②妊娠中の異常の有無。③帝王切開。④新生児異常の有無。⑤退院時の児の体重。⑥退院先(実家・それ以外) ⑦産後の手伝いの有無。⑧退院時母乳栄養か否か。⑨退院時、直母できるか否か。⑩退院日(分娩後 5 日・それ以外)以上の項目で  $\chi^2$  検定により有意差は見られなかった。今回も、先行研究同様当院がプライマリーケアを担う対象は産科的合併症の少ない症例がほとんどであった。

3. 表 2 にマタニティブルーズと EPDS の出現結果を示す。マタニティブルーズ群は 31 名 8.7%、退院時では EPDS 高得点は 32 名 9%、1 か月時では EPDS 高得点 17 名 4.8% であった。

4. マタニティブルーズ群 31 名の初産・経産別の出現率を図 1 に示す。初産は 188 名中 24 名で 12.8%、経産 168 名中 7 名で 4.2% であった。初

表 1. 当院の取り組み

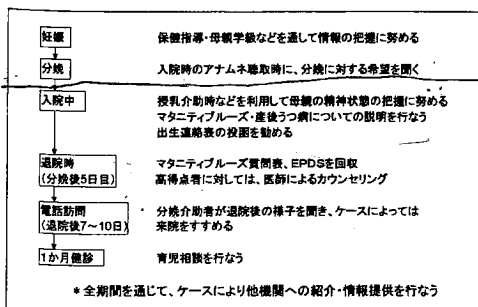


表 2. マタニティブルーズと EPDS n=356

マタニティブルーズ	退院時 EPDS	1 か月時 EPDS
マタニティブルーズ群 31 名 8.7%	高得点 16 名	高得点 5 名
	低得点 15 名	低得点 11 名
非ブルーズ群 325 名	高得点 16 名	高得点 2 名
		低得点 14 名
	低得点 309 名	高得点 7 名
		低得点 302 名

産婦が経産婦にくらべ、3倍多くマタニティブルーが出現しており、 $\chi^2$ 検定により有意差がみられた。

- 退院時 EPDS 高得点、1か月時 EPDS 高得点の初産・経産別の出現率を、図2に示す。退院時 EPDS 高得点は初産 18名、9.6%。経産 14名、8.3%であった。1か月時 EPDS 高得点は初産 12名、6.4%。経産 5名、3%であった。退院時、1か月時ともに初産・経産の間に、 $\chi^2$ 検定で有意差はみられなかった。
- マタニティブルー群・非ブルー群別、退院時・1か月時の EPDS 高得点出現率を図3に示す。退院時ではマタニティブルー群 51.6%、非ブルー群 4.9%。1か月時ではマタニティブルー群 25.8%、非ブルー群 2.8%であった。

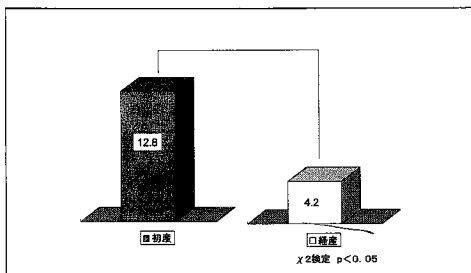


図1. 初産・経産別のマタニティブルーの出現率 (%)

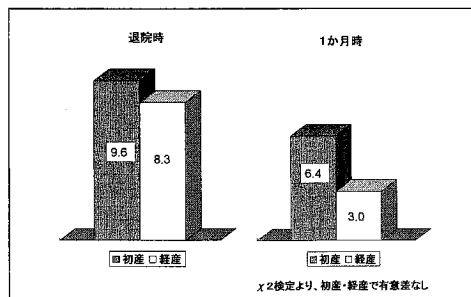


図2. 初産・経産別の EPDS 高得点出現率 (%)

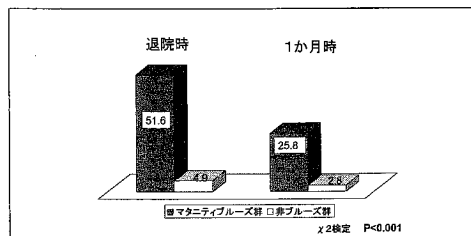


図3. マタニティブルー群・非ブルー群の退院時・1か月時の EPDS 高得点出現率 (%)

退院時、1か月時ともに、マタニティブルー群、非ブルー群で EPDS 高得点の出現率は、 $\chi^2$ 検定により有意差がみられた。また、マタニティブルー群得点と、EPDS 得点との間には退院時  $r = 0.675$ 、1か月時  $r = 0.507$  で、いずれもやや強い正の相関があった。

- 表2の [ ] は、退院時には、マタニティブルー群、EPDS 低得点で、1か月時に EPDS が高得点となった3名の母親である。 [ ] は退院時には、非ブルー群、EPDS 低得点で、1か月時に EPDS が高得点になった7名の母親である。

#### 【考察】

マタニティブルーは経産婦にくらべ、初産婦の出現率が高かった。マタニティブルー質問票は身体的側面も含むため、出産後の身体的侵襲を初めて経験している初産婦に、マタニティブルーが多く出現したと推測される。

属性からマタニティブルー、産後うつ病の発症を予測することは難しいため、マタニティブルー質問票・EPDSを併用したスクリーニングを行うことは効果的と考える。

退院時には、マタニティブルー、EPDSともに低得点で、1か月時に EPDS が高得点となるケースもあり、家族に対する働きかけを行いながら、サポート態勢の充実を図る必要がある。

③マタニティブルー群は非ブルー群にくらべ、退院時、1か月時共に EPDS 高得点の出現率が高かった。マタニティブルー群への退院後のサポート態勢の充実を図り、マタニティブルーの経過に注目する必要がある。

#### 【結論】

EPDS とマタニティブルー質問票を併用することで、産褥早期の母親の精神状態をより的確に判断することができ、早期介入が可能となる。

#### 引用文献

- 岡野禎二、野村純一、越川法子、他: Maternity blues と産後うつ病の比較文化的研究、精神医学、33 (10)、p1051-1058、1991

#### 参考文献

- 吉田敬子: 母子と家族への援助、妊婦と出産の精神医学、金剛出版、東京 2000
- 金子廣子: マタニティブルーと産後うつ病の観察ポイントとその対応、周産期医学、vol.32 no10、医学書院、p1363-1367、2002-10